

機能部材事業本部長メッセージ



成長分野の拡大に向けて、 投資効果の刈り取り、リソース集中、 シナジー創出を図る

執行役常務 機能部材事業本部長
村上 和也

2021年度中期経営計画

		2018年度実績	2021年度目標
磁性材料・ パワー エレクトロニクス	売上収益	1,370億円	1,750億円
	調整後営業利益 ()は利益率	(2.9%) 40億円	(12.6%) 220億円
	ROIC	3.9%	8.2%
電線材料	売上収益	2,401億円	2,450億円
	調整後営業利益 ()は利益率	(5.2%) 125億円	(7.8%) 190億円
	ROIC	8.2%	11.3%
合計*	売上収益	3,771億円	4,200億円
	調整後営業利益 ()は利益率	(4.4%) 165億円	(9.8%) 410億円
	ROIC	5.5%	9.3%

*セグメント間相殺前の単純合計値

設備投資額
(3年間累計)
690億円

パワーエレクトロニクス

- 軟磁性部材のグローバル生産体制拡充
- セラミックス製品の生産能力増強

自動車部品

- タイ、ベトナム拠点でEPB用ハーネスの製造能力増強

2018年度中期経営計画の取り組み

オーガニックグロースに向けて、革新的生産ラインの導入、日立金属三環磁材(南通)有限公司の設立、新型連続鋳造圧延ラインの導入を行いました。また、ポータルフォリオの継続的な刷新として情報システム事業およびリードフレーム事業を譲渡しました。さらに、磁石合金メーカーである株式会社三徳の子会社化、米国医療関連HTP-Meds, LLCの子会社化などM&Aを実行しました。

2021年度中期経営計画の基本方針

2021年度中期経営計画では、都市化、少子高齢化、環境問題の深刻化、テクノロジーの進化といったメガトレンドの中で、自動車、FA・ロボット、医療、鉄道を成長分野と位置づけ、「投資効果の刈り取り」「リソースの集中」「事業間シナジーの創出」に注力します。

成長分野の拡大

自動車分野

機能部材事業本部は、自動車分野において、パワーエレクトロニクスの軟磁性部材、磁性材料の磁石、電線材料のマグネットワイヤなど多様な製品を提供しています。先進機能部材設計技術を軸に、事業間シナジーを創出し、急拡大する電装・xEV^{*1}化のニーズに応えていきます。

軟磁性部材に関しては、需要が拡大する中、2019年4月にメトグラス安来工場のファインメット[®]リボン生産ラインを稼働させ、従来比4倍、世界No.1の生産能力を確立しました。また、ソフトフェライトの生産能力増強に向け、2020年1月よりフィリピンで量産を予定するなど、2021年度売上目標1.4倍(2018年度対比)をめざします。

セラミックス製品に関しては、パワーモジュールの冷却機構の小型化・低コスト化に貢献する、高い熱伝導効率と機械的強度を両立した窒化ケイ素基板などの絶縁基板のニーズが高まっています。窒化ケイ素基板については、国

内での生産能力増強と高熱伝導品の量産を開始、SiC基板については、研磨技術の深化によりビジネスを拡大するなど、2021年度売上目標2.2倍(2018年度対比)をめざします。

また、xEVの駆動モーターの高効率化に向けて、アモルフラス金属をコアの一部に採用したモーターを開発しました(詳細はP.39に記載)。また、ドイツのフラウンホーファー研究機構とは、xEV用オンボードチャージャーの高出力化と小型化に貢献する高電力密度化技術を共同開発しました。これらの成果を活用して高性能な軟磁性部材事業の拡大をめざします。

自動車電装部品に関しては、タイおよびベトナムでの電動パーキングブレーキ用ハーネスの製造能力増強を図っていきます。また、日本および中国拠点でのフィードアッシー^{*2}事業拡大や、新型センサーの開発にも注力するなど、2025年度売上目標1.7倍(2018年度対比)をめざします。

マグネットワイヤに関しては、旺盛なxEV需要に応えるために、日本およびタイにおける量産を開始しました。また、高PDIV(部分放電開始電圧)線や耐サージ線といった差別化製品の販売も強化していきます。

磁性材料に関しては、磁石合金の100%内製化、資源のリスク低減に向けた省重希土類磁石のラインアップ拡

充、ネオジウム磁石・フェライト磁石の新生産ライン設置などを実施してきました。今後は、新生産ラインの生産性向上、グローバル生産体制の最適化などにより、収益性改善と受注拡大を図ることで、2021年度の調整後営業利益率10%をめざします。

※1 xEV: 電気自動車(EV)、ハイブリッド電気自動車(HEV)、プラグインハイブリッド電気自動車(PHEV)の総称。
※2 フィードアッシー: xEV用モーター向け配線部品

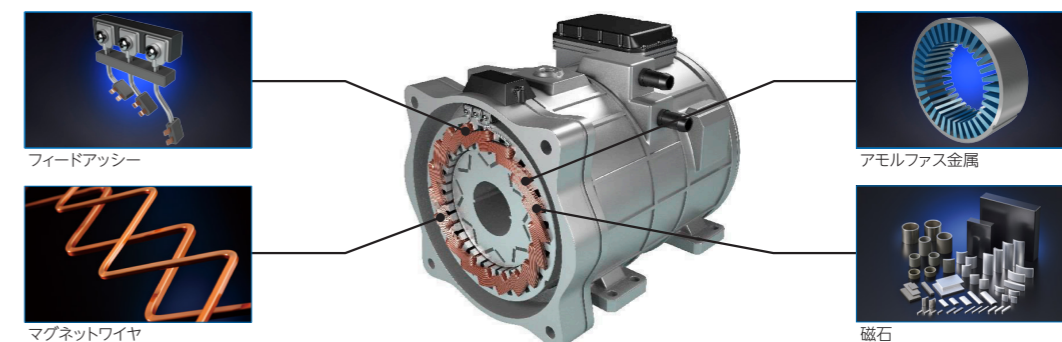
FA・ロボット分野、医療分野、鉄道分野

FA・ロボット用電線に関しては、細径軽量化と長寿命化を可能にする独自の技術でシェア拡大を図っていきます。生産は日本、中国、ベトナムで行っており、市場変動に対応した機動的な投資判断を実施することなどで、2021年度売上目標100億円をめざします。

医療分野に関しては、CT装置向けシンチレータ材の高性能化、カテーテル検査・治療機器向けのカテーテルチューブとケーブルの融合製品拡充、超音波診断装置向けプローブケーブルの新製品量産化を進め、2021年度売上目標1.3倍(2018年度対比)をめざします。

鉄道分野の車両用電線に関しては、高速鉄道市場が拡大する中国のシェア拡大をめざします。また、欧州市場では、製品の供給に加え、配線ナビゲーションなどのソリューション提案を進めることなどにより、2021年度売上目標140億円をめざします。

自動車分野 磁石・パワーエレクトロニクス・電線材料のシナジー追求



先進機能部材設計技術を軸に自動車・産業インフラ市場を深耕